

飛翔

For a bright future



海外人材特集
驚異の出稼ぎ大国フィリピン

“最強の出稼ぎ国家” フィリピン共和国



「国策」の強み。海外送金総額 驚異の 289 億ドル

2019年2月15日。日経新聞にフィリピン共和国の記事が載った。
「フィリピン、18年の海外送金3.1% 増に鈍化」。そうか、送金額が減ったんだな。大変だな、と思い読み進めると目を見張った。

送金総額“GDPの1割”

なんとフィリピン本国への海外からの総送金額が 289 億ドル（約 3兆 2,000 億円）に上るというのだ。送金額が鈍化したとはいえ、とてつもない金額が送金されており、それを支える労働者が世界各地にいる事が分かる。事実出稼ぎ労働者からの送金は国内総生産（GDP）の約 1 割を占め、国内に就労機会の少ないフィリピンは多くの人が働きに出ています。その数は人口の 1 割にあたる 1,000 万人に上り、フィリピン政府も外貨獲得の重要な手法として考えています。世界で一番、海外へ人材を紹介する「仕組み」作りが進んでいる国家——そんな世界最大の人材輸出国、フィリピンの実情を追った。



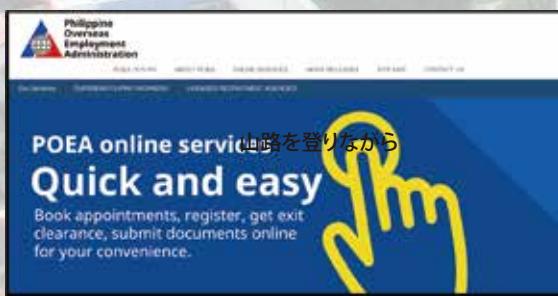
オフィス街では、走る車以外は日本との違いを感じない。

特定技能の現地試験をいち早く導入

前述の通り、フィリピンは海外へ人材を国策として派遣しています。そこで政府は管理機関として POEA（海外雇用庁：Philippine Overseas Employment Administration）という役所を設けています。海外で働くフィリピン人の人権等を守るために、受け入れ先の企業や求人の審査を役割を担っています。求人情報や企業情報まで管理されるため窮屈に感じるかもしれません、同時に求職者の管理も実施されているため、万が一犯罪者を受入してしまうようなリスクを回避することができます。日本国内にもフィリピン大使館内に POEA の出先機関である POLO（Philippine Overseas Labor Office）という機関があり、在日フィリピン人と、我々監理団体のフォローを包括的に行ってています。

国家としては日本向け介護分野で他国に先駆けて「NC II(※)」というフィリピン国内の介護資格に

該当するものを介護技能実習制度の技能要件として認定。業務スキルの平準化という受入の際の大きな問題を制度開始時からクリアしています。また、政府主導で特定技能（介護等）の海外現地試験をいち早く導入し、日本国内への人材の送り出しを準備しています。このような受け入れの具体的な手続きは POLO に申請を行います。POLO とのやり取りは当組合にお任せいただくことが可能です。



POEAのwebサイト

フィリピン共和国提携

送出し機関紹介



JobsConnect
MANPOWER AGENCY, INC.
LICENSE NO. POEA-080-LB-032818-R

JobsConnect社は、介護に特化した送出し機関として運営。

NCII(※)資格取得者を基にした実務者を対象とした送出しを積極的に行っています。

優秀なフィリピン人を送り出せる背景とは?

フィリピンの実質失業率の悪さを背景に、日本を含む海外への就業を求める動きが活発化しています。

PHILIPPINES INSIDE NEWS「2018年度国内総生産(GDP)成長率 予想相次ぐ」2018/04/16 より抜粋

2017年の失業率は5.7%となり、前年の5.5%より悪化した。このフィリピンの失業率だが、実際は20%以上は定職を持たないといわれていて、政府に都合の良い数字で発表されているとの批判が強い。

特に若年層の失業率は政府目標は11%であったが、2017年は14.4%となり目標を大きく超えていて、実際はもっと悪く、その倍くらいは悪いとの指摘もある。また、政府目標では毎年100万人前後の雇用を創出できるとしているが、2017年では実質65万人が職を失っていて政府の雇用創出計画は大きく後退している。

JobsConnect 代表Eloiza氏(右)と当協同組合理事の木原(左)無事契約を締結いたしました。



提携日本語学校

SAIJOU INTERNATIONAL TRAINING CENTER, INC

JobsConnect社と同一ビルで運営しており、緊密な連携体制を作りあげております。



日本語の教育を現地と日本にて共通のカリキュラムを使用。日本での日本語フォローが容易にできる体制を整えています。

代表たより

日本と同じ島嶼からなるフィリピンは、南北に長く続く7000以上の島々からなる国家です。島々と同じように、民族も100を超える数があり、マレー系を中心とする多民族国家です。

島、民族と多様性を抱えるフィリピン共和国から、日本にマッチした人材をご紹介するのは容易なことではありません。

私たちは、「フィリピン人」と一括りにせず、より日本人・日本文化にマッチした人材をご紹介致します。



代表理事 赤石 清美

元 参議院議員
元 政府開発援助等に関する特別委員会 委員長

ピックアップ：NC2(Caregiving NC) II とは

総研修時間：786 時間

NC II は、フィリピン国家資格枠組み (PNQF) の中で定められる職業能力基準の一つです。様々な職業が含まれていますが、介護についての基準もあり、この基準を合格する為の職業訓練校が多く (15,000 校以上) 存在しています。介護に関する NC II は、高齢者に対し、ケアサポートを提供し、特別なニーズを持つ人々の健康で安全な環境を創造し、維持することを目的としています。リビング・ダイニング・寝室・トイレや浴室の清掃から、洗濯や緊急時の対応まで包括的に学ぶ、“介護資格”です。※この制度と類似するのは、イギリスの NVQ であり、日本でも JAVADA が中心になり職業能力基準の普及活動を進めています。

マニラ市街

本社と送出し前の教育を行う日本語学校は、フィリピン首都圏のマニラに拠点をおいています。

首都圏の人口は2,200万人を超え、世界有数の都市を形成しています。

介護人材として

フィリピンでは人口に対して就業先が足らないと言われています。特にフィリピン南部のミンダナオ島では紛争(※)の影響から日本を含む外資系企業の進出が少なく、就業機会そのものが少ない状況です。日本で介護人材として働くことで、新たなチャンスを掴みたいと考えている人材が多くいると言われています。

■人柄

フィリピン人は話し好きで、介護の現場に向いていると言われています。特に入居者とのやり取りで現場が明るくなったとの評価も多く、今後の活躍が期待されています。

しかし、英語 / タガログ語などの言語圏な為日本語の習得に苦労することが多く「話せても、書けない」という事が散見されてきました。



我々高齢社会生活向上協同組合は、この日本語教育に正面から取り組んでいきます。

ピックアップ：ミンダナオ紛争

ミンダナオ島
ダバオ市の街並み



フィリピン南部、ミンダナオ島では過去40年を超える長きにわたって、イスラム系とキリスト教系住人との軋轢により十数万人が死亡、200万人以上が避難する紛争が続いてきた。2012年にマレーシアや日本の仲介で、2016年までにイスラム系住民の自治政府を設立する和平案に合意。ミンダナオ出身のドゥテルテ大統領は和平を公約してきた。

ミンダナオ島



編集後記

フィリピン人のフレンドリーさには本当に驚かされます。みなさんいつも笑顔で接してくれます。この笑顔が海外での出稼ぎで大活躍してくれているのだと思います。新しい生活、新しい職場にいち早く適応する能力なのでしょう。周りの人間も笑顔にさせてしまうこの能力を皆様のところにお届けできるよう頑張って参りたいと思います。



編集：木村



市場での販売は野菜や果物だけでなく魚も並んでいました。



市場の様子活気があふれていました

高齢社会生活向上協同組合

